

ヒロシマから未来へ

平和を考える

とちぎから

「広島原爆の日」、平和記念式典を翌日に控えた5日、本県の各市町から派遣された中学生が相次いで広島入りし、被爆の実相や平和への願いなどを学んでいる。派遣を実施するのは昨年と同じ10市町だが、今年は小山市、野木町、茨城県結城市の2市1町が初めて県境を越えた合同派遣団を組織。平和記念式典には、合同派遣団を含め本県全体で過去最多の187人の中学生が参列する。

2市1町の全16校から派遣された中学生は、原爆ドームなどを見学した小山市、野木町、茨城県結城市の合同派遣団の中学生は5日午後、広島市中区

県内中学生最多派遣

遣された2年生38人は5日午後、広島市中区の平和記念公園に到着した。気温35度に迫る猛暑の中、原爆ドームや広島平和記念資料館を見学した。



10市町187人、結城市と合同も

野木第二中の中村洗和さん(14)は「資料館にある全身にやけどを負った男性の写真を見て、胸が締め付けられる思いがした」と表情をこわばらせた。原爆ドームが印象に残ったという小山中の山本陽太さん(14)は6日の式典に向けて、「平和につながるヒントを得て、みんなに伝えたい」と意気込んだ。

一方、結城東中の齋藤夢叶さん(13)は「原爆投下当日の広島市内が映った写真を見て、原爆の威力やひどさを強く感じた」という。さらに「小山や野木の中学生と一緒に学べて刺激になる」とも話した。

今年の本県自治体の中学生派遣は小山、野木をはじめ、宇都宮、栃木、鹿沼、日光、那須烏山、下野、壬生、那須の10市町。日光市は最多の40人を派遣している。

(石井賢俊)